

はじめに

新学習指導要領の全面実施から3年、学力や学習意欲に関する国際的調査や各種機関での調査結果から、「学力」や「教育課程」をめぐる議論が改めて活発となっている中、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことをめざす教育改革の真価が問われています。

京都市においては、これまで本市教育が培ってきた伝統と成果の上に立ち、「大胆に変革し、頑固に守る」姿勢を堅持して、より確かな教育改革をめざして取組を進めてまいりました。そのひとつとして、本センター研究課では、「今を生き、次代を拓く力の育成」という本市教育の最高目標のもと、重点課題に即した9項目について、この一年間、研究を積み重ねてまいりました。ここに、確かな教育の営みを創造するために実施した調査の結果や、今後の教育課題に応えるために開発し実践した先行的な学習プログラムの成果などをまとめ、刊行することとなりました。

この研究紀要CD-ROM版では、「確かな力をはぐくむために」をテーマとした五編の研究と、「豊かな心をはぐくむために」をテーマとした四編の研究を掲載しています。前者は、小・中連携教育が提唱されている中で、その現状を捉え直し、意義と在り方を提案した研究、「目標の一貫性、内容の系統性、指導の継続性」をキーワードに小・中学校を貫いて取り組んだ算数・数学教育の試み、同じく「伝え合う力」の育成に小・中学校が共通して取り組んだ国語教育の試み、実践的コミュニケーション能力を高めるために中学校三年間の英語学習に「タスク」を取り入れた実践と提案、そして、教員自らが「授業力」を高めるために活用できる研修用コンテンツの開発の五編の研究です。また、後者のテーマでは、学校図書館の機能をいかして、主体的に読書活動に取り組む子どもを育てるための年間計画の開発とその実践、総合単元的学習を通して子どもたちの道徳的な成長を見取る評価の在り方に取り組んだ研究、子どもたちの休日の過ごし方やそこでの思いを丁寧に探った生活実態調査、自ら行ったフィールド調査と教職員へのアンケート調査を通して、就学前教育と学校教育とのよりよい連携の在り方を探った研究の四編の研究成果です。

いずれの研究も、関係各課との密接な連携のもと、求められている喫緊の教育課題に取り組んだもので、各学校での教育計画作成のための基礎資料として、あるいは教育活動を進める上での実践事例として、いかしていただけるものと思っております。

日々刻々と変化する激動の時代、教育はその流れをしっかりと読み解きながらも、すべての子どもたちに確かな力と豊かな心をはぐくむ営みを揺らぐことなく邁進していくことが求められています。そうした期待に応えるべく、「一人ひとりの子どもを徹底して大切にす」という本市教育の伝統を継承・発展させ、日々、確かな教育の営みに、精励されている先生方のお取組の参考に供するところが少しでもあればと願いますとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、各研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成17年3月

京都市総合教育センター
所長 谷口賢司